

「黒江の町並み」点検

住民が景観保全へ初調査

海南

住民が景観保全を進める海南市黒江地区で、伝統的な家屋の現状などを調べる「黒江町並み点検」が初めて行われ、



住民などが家屋や道路、水路などを調べた町並み点検

— 海南市黒江で

れた。昨年12月、景観づくり協定に合意した住民が、活動の第1弾として実施した。結果を基に、町並み保全に向けた課題を分析し、秋には簡単な修景に挑戦する考えだ。

協定の運営協議会と県建築士会海南支部の建築士ら計約20人が4グループに分かれて散策。黒江独特の格子「紀州連子」の有無など家屋の伝統的な姿がどこにどの程度残っているか▽黒江の古い町並みの特徴である家の前の三角形のスペースの有無▽道路や水路などの都市設計——などを観察し、メモや写真で記

録した。

住民の柳川和一郎さん(85)らは、協定対象地区の南側を調査した。かつて水路があった場所などを説明しながら「路上の灯ろうが傾き、災害時は危ない」などと指摘した。一行を自宅の見学に招いた尾崎林太郎さん(76)は「長い歴史を持つ家を守る使命を感じてきた。自分の町全体の保全も協力したい」と話した。

地区の空き家の傷み具合も外から確認。一級建築士、九鬼敏博さん(56)が「同様の建物を直してカフェに活用し、まちおこしに結びつけた地域もある。実は値打ちがある建物が多いと知ってもらえたら」と助言した。

【久木田照子】